

十月アルミ概ね輸出減少、輸入は増加
 輸出統計

生産動向 圧延品増加、二次合金は減少

橋本健一郎氏リポート②

【概況】十一月前半は、十月のユーロ圏製造業景況感指数(PMI)が一五カ月連続で五〇を下回った事、九月の独鋳工業生産が二カ月連続で悪化した事、さらにユーロ圏の鋳工業生産が二・五%減だった事などマイナスマが多かったが、十月の中国鋳工業生産や小売売上高の好結果などプラス材料に反応し、LMEアルミ相場は一、九七五ドル(現物後場買い)と約七〇ドル上昇しての前半締めとなった。

後半はハリケーン「サンディ」の被害やムーディーズによる債権の格下げなどマイナスマもあったが、十一月の米建築会社景況感が六年半ぶりの高水準だった事、十月の米住宅着工数が予測に反して好調だった事、さらに米クリスマス商戦ブラックフライデー(黒字の金曜)が好調な滑り出しだった事を好感し、LMEアルミ相場は上昇。

十二月三日現在、LMEアルミ相場は(現物後場)二、〇八三ドルと一〇八ドル急騰してのスタートとなった。

■前月の経済指標

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前月比二・三%増の七九万二、一六六台であった(前年比一二・四%減)。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前月比八・二%増の二四万三、九七四台(前年比三・三%減)。

【前月の経済指標】

◆新設住宅着工戸数

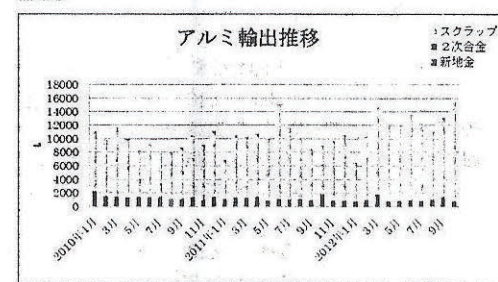
国土交通省によると、新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)一二・九%増(昨年比二五・二%増)の八万四、二五一戸であった。

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前月比四九・四%減の一・七t、二次合金が四一・八%減の六四九t、スクラップが二四・三%増の一万四、六九七t。

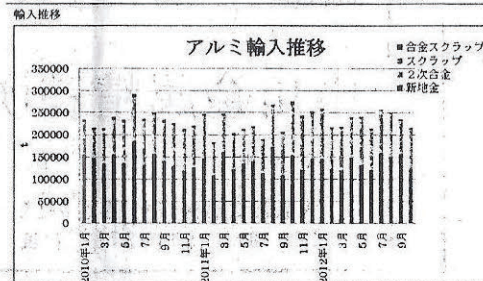
輸入は新地金が前月比二〇・九%減の一・二万三、四〇五t、二次合金が一五・九%増の八万七、九一六t、スクラップが一〇五%増の一、一八一t、合金スクラップは三二・一%増の三、八九〇t。

輸出	8月	9月	10月
新地金	144 t	231 t	117 t
前月比	-12.2%	+60.4%	-49.4%
二次合金	842 t	1116 t	649 t
前月比	+33.4%	+32.5%	-41.8%
スクラップ	10101 t	11820 t	14697 t
前月比	-12.3%	+17%	+24.3%



出典 財務省貿易統計

輸入	8月	9月	10月
新地金	14万9617 t	15万5940 t	12万3405 t
前月比	-6.1%	+4.2%	-20.9%
二次合金	8万8646 t	7万5828 t	8万7916 t
前月比	+4.1%	-23.1%	+15.9%
スクラップ	649 t	576 t	1181 t
前月比	+30.8%	-11.2%	+105%
合金スクラップ	2729 t	2945 t	3890 t
前月比	-1.5%	+7.9%	+32.1%



出典 財務省貿易統計

【前月の国内指標】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産・出荷動向によれば、板類・押出類生産合計は前月比六・七%増の二七万三、〇六四t(昨年対比一・六%増)。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前月比一・八%増の六万六、六七〇tであった(昨年対比九・一%減)。(六面に続く)

◆KLT M 米ドル

七月 二一・七〇〇

三〇

米ドル

メロスクラップ購入姿勢は慎重 先行き不透明感などで

(四面より続く)

LMEアルミ、上値は限定的か

まだまだ下げ止まる気配はなし。

また国内自動車販売台数が二四万三、九七四台であり、こちらも前年比三・三%減と悪化。

自動車関連のアルミ二次合金生産は引き続き昨年対比九・一%減と二カ月連続の減少、今後も販売台数の減少により圧迫される可能性は捨て切れない。

その他、住宅・家電需要が見込める圧延・押出品生産数は前月比六・七%増の一七万三、〇六四t。昨年対比一・六%増と住宅市場などの回復を受けて小幅上昇している。

新設住宅着工数は季節調整前月比二・二%増の八万四、二五一戸、前年比は二五・二%増と前月に続き大幅増加した。

輸入は新地金が前月比二〇・九%減の一・二万三、四〇五t、自動車関連の二次合金は一五・九%増の八万七、九一六t。スクラップは一〇・五%増の一、二八二t、合金スクラップは三二・一%増の三、八九〇t。

輸出は新地金が前月比四九・四%減の一・一七t、二次合金が四・八%減の六四九t、スクラップが二四・三%増の一万四、六九七t。

新地金を除く輸入の大幅増の背景には内需の発生難もあるとみられる。

アルミ原料需給に関しては、先月に続き新設住宅着工数が前年比二五・三%増と二カ月連続二桁プラスであり、回復の兆しあり。

最大の需要家である自動車メーカーの自動車販売が八・二%増(前月比、三・三%減(前年比))とやや下げ止まっただけのもの、二次合金生産が九・一%減(前年比)と、今後も販売が減少するようなら買い気薄の可能性は捨て切れない。

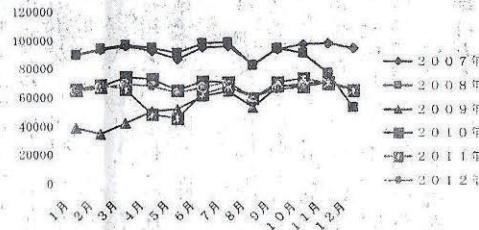
以上から、現在は中国領土問題における輸出の支障はないが、自動車生産の先行き不透明感や、年末からの正月休暇を控えていること、さらにここ最近の新塊価格高騰を受けてメーカーのスクラップ購入姿勢は慎重である。

LME価格に関してはやはり「米国財政の崖問題」という事になるのだが、こちらは無事に通過しても織り込み済みで、新規大型材料難から上値は直近高値の二、二〇〇ドルか。

下値は仮に財政の崖でゴタつくような事があれば直近の安値までの下げも考えられ、一、九〇〇ドルを予測している。

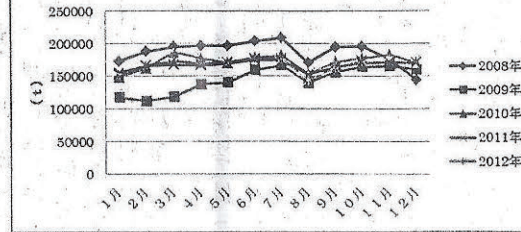
スクラップ価格については、十一月後半価格比で品種によって据え置きから三〜五円程度の値上がりも予想される。

アルミ2次合金等生産実績



出典 日本アルミニウム合金協会

アルミ板類・押出生産合計推移



出典 日本アルミニウム協会

【見通し】

十二月は自動車生産がさらに二桁悪化、販売の方も三・三%減とまだまだ減少基調(前年比)。一方で、住宅関連は先月の悪化から一転、前月比(季節調整済み)一一・九%増の八万四、二五一戸(昨年比二五・二%増)と、復興需要も伴って大幅増。

欧州債務問題についてはIMF(国際通貨基金)と欧州銀行がギリシャ救済に関して大幅譲歩、無事合意に至ったことから懸念は一旦後退している。ただゼネストなどの不確定要因が多く予断は禁物であろう。

自動車生産は前年比二二・四%減の七九万二、一六六台と前月に続き前年割れであり、